

# 新型コロナ感染症と対峙した2年10か月 —皆様への感謝と市立西脇病院感染対策管理室の責任—

感染対策管理室長・小児科部長 佐伯 啓介

令和元年度に行った新型インフルエンザに対応するための訓練は、はからずも時をおかずして実践を余儀なくされることになりました。国内で初めて新型コロナ肺炎患者が報告された1月中旬以降、この難局に全病院を挙げて対応するため、BCP（事業継続計画）レベルでの対策本部を立ち上げました。そこから怒涛のように時間が流れ、気が付けばもうすぐ3年になります。感染対策管理室長を引き継いだばかりの私は当初は途方に暮れていましたが、病院管理職や管理室の仲間をはじめ、全スタッフ、そして医師会の先生方の献身的な協力により、何とか職務を継続することができています。感謝してもし尽せない、本当にありがたいことだと実感しています。対策本部では令和2年6月より院内活動再開ロードマップ（のちに行動規範に変更）を策定し、感染拡大状況のフェーズに応じた院内活動指標や職員のプライベートでの行動規範をお示ししました。これには強制力はないのですが、職員の皆さんは多大なる自己犠牲のもとに行動規範を順守し、そのうえでそれぞれの職務を遂行してくれました。当初は期間がこれほど長くなるとは考えてはおらず、予期できぬこととはいえ、長期間にわたってご負担をおかけしていること、職員のみならずそのご家族に対しても大変申し訳ないと思っています。同時に、改めて、本当にありがとうございます。

SNSでは、政府やアドバイザリーボードの専門家に対する厳しいご意見やワクチンに対する不信などが飛び交っています。医療関係者の中にも強いご不満をお持ちの方もいらっしゃると思います。情報社会の中で、刹那的で軽率な言説が多大な影響力を有している昨今では仕方のないことかもしれませんが、最初から絶え間なく関わっている立場としては、日本の対応はとても成功していると思っています。当初から、ワクチン接種が行き渡る、もしくはウイルスが弱毒化するまで、感染の波を遅らせ、時間稼ぎをすることで死者・重症者を極力少なくする方針をとってきました。その結果、欧米諸国に比較してわが国はとても少ない死者数で済んでいます。その後オミクロン株が流行し、ワクチンに加えて集団免疫を獲得する作戦に移行した諸外国とは異なり、国民皆保険制度のわが国では、他のすべての医療アクセスを維持した状態でのコロナ拡大という難題が現れました。もともとぎりぎり混沌とした医療制度の中で、コロナ対応分の枠を増やすのではなく、通常医療の枠を削ってコロナ対応に充ててきましたが、各々の役割を持つ医療機関の対応が追い付かない状況となったのです。この課題は今もなお続いています。インフルエンザと同じじゃないかというご意見がありますが、インフルエンザも、毎年医療機関の負荷となっていました。それが桁違いの感染力で増加したのです。同じではありません、増えたのです。フリーアクセスは患者さんにとってとてもありがたいことですが、維持するためには何らかの取引が必要になっていることもまた事実なのです。

第8波の足音が聞こえ始めている今、コロナに限らず、今後も訪れるであろう新興感染症との共存について真剣に考えていく時期が来ているのではないのでしょうか。限られたリソースをどのように配分するのか、市民レベルでのコンセンサスと医療の継続性を両立するには何が必要か、大きな宿題が残されたままであると感じています。

対策本部では、来るべきコロナ共存社会に備えた対応についても協議を続けています。コロナは“いなくなる”のではなく、“いつもいる”になることを想定し、そのための意識改革、感染予防リテラシーの抜本的向上に向けた策案を行っていく必要があります。コロナに蹂躪されたままではいけません。

以前より大きくなって立ち上がることが目標です。いまだ道半ばではありますが、今後とも皆様のご協力・ご指導をいただきますよう、切にお願い致します。

患者総合支援センターだより  
2022年11月発行

〒677-0043 兵庫県西脇市下戸田652番地の1  
TEL: 0795-22-0111(代表)

患者総合支援センター 直通  
TEL: 0795-22-8270  
FAX: 0795-23-4580

西脇市立西脇病院 Nishiwaki Municipal hospital

## 患者総合支援センターだより



HP: <https://www.city.nishiwaki.lg.jp/hospital>

### 市立西脇病院の新型コロナウイルス対応

西脇市病院事業管理者・病院長  
岩井 正秀

令和2年の春以来、新型コロナウイルスは世界中で猛威を振るい、私達の住むこの北播磨圏域も度重なる襲来を受けて来ました。多くの医療機関が病院を挙げて立ち向かったのですが、市立西脇病院もまた、次々と繰り出されるウイルスの攻撃と絶えず戦ってきました。急増する患者さんに備え、また院内感染予防の観点から、駐車場で始めた発熱トリアージ外来、軽症～中等症を受け入れるための新型コロナウイルス病棟の開設、また複数回にわたる新型コロナワクチンの接種など、いずれも病院としては初めての試みでしたが、頻りに議論を重ね、慎重に、しかし可能な限り迅速に行ってきました。また、当然その間も通常の外来や入院の診療、救急の受け入れは持続せねばならず、スタッフにとっては非常に厳しい業務が続きました。しかし、そうした時に、西脇市多可郡医師会の先生方の積極的な参加や、地域住民の皆さんからの多くの暖かい御支援があり、病院は何度も勇気をいただいたことは今も胸に深く残っています。

新型コロナウイルスは変異を重ねながら、まだまだ新しい波の到来も危惧されています。しかし、市立西脇病院は、これからも、新型コロナウイルスに対する、また、そのみならず従来通り、様々な疾患に対するこの地域の拠点病院として、奮闘努力していく所存ですので、皆様のご協力、ご支援を引き続きよろしくお願い申し上げます。





## 発熱トリージ外来について

内科主任部長  
来住 稔

2020年2月にダイヤモンドプリンセス号での感染報告が相次ぎ、2月27日に故安倍首相が記者会見を行いました。3月上旬には近隣の2つの公立病院が軒並み新型コロナの院内発生を認め外来や救急の受け入れを全面中止しました。まだワクチンもなく有効な治療法も定まっておらず感染者の2割が重症化するなどと言われていた頃の話です。

「発熱トリージ外来」はそのような中生まれました。何としても西脇病院に新型コロナウイルスを紛れ込ませるはいけない。スローガンでも何もなく近隣の病院の現状からの現実味を帯びた危機感から始まりました。当院に西脇病院と西脇市多可郡の医師会の諸先生方が一同に集まり、皆で駐車場に建てられたテントを前にして「戦いの始まり」の感覚がみなぎったことを思い出します。

開始当初は数か月程度の運用を予想していた発熱トリージ外来も開設から二年半が経ちました。プレハブで運用していますがかなりのことができるといっていいと思います。検体検査のみならず、導線を上手に組むことで院内を汚染することなく尿検査、胸部X線検査、CT検査なども行えます。名称は発熱トリージ外来ではありますが様々な発熱疾患に基幹病院としての高度な検査を含めた対応が行えますので、発熱の精査が必要である場合ご紹介ください。

テントがプレハブに変わったのみならず、エアコンや空調が完備されたり、リスクの層別化で検査のみの外来を用意したり、この二年半で様々な進化しました。これらは全て現場で生じた問題点をその都度解決するという西脇病院らしいやり方で進化していったものと考えます。そしてそれは目の前で困っている患者さんにどのように持てる知恵と力を発揮して対応するかという実臨床そのものの力でもあります。

病院の最前線として、病院のみならず地域の医療機関や患者様を守るための発熱トリージ外来はまだしばらく続くものと思われれます。2020年3月上旬の夕方の寒空の元テントを前に意気込んだ我々は、いつかそのプレハブをたためるようになるその日までもう少し戦わなければなりません。



# 4階南入院棟の紹介



当病棟は2021年2月より、COVID-19感染症患者様の入院を受け入れています。全室個室8床を隔離された病床とし、重症化リスクの高い患者様の治療、生活の援助を行っています。当病棟のスローガン「徹底・寄り添う・笑顔」を掲げ、患者様が安全・安楽・安心して療養生活が送れるよう関わりを持っています。そして、COVID-19感染症に対する多くの知識と正確な技術の基に、柔軟で最適な医療・看護が実践できるよう努力を重ねています。最近では、維持透析中の患者様にも対応し、臨床工学技士と連携しながら継続した透析治療が行えるようになりました。また、隔離環境にある患者様の苦悩やストレスにも寄り添い、安心感と温もりのある患者様中心の医療・看護を提供しています。

## スローガン

患者を守り、自身も守る、正しい個人防護具の着脱。  
手洗い、手指消毒の徹底。

徹底

マスクの下の表情を意識し、いつも笑顔でアイコンタクト

笑顔

寄り添う

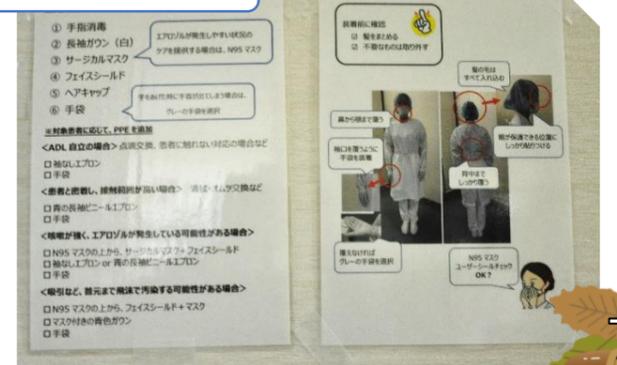
患者の立場に立ち、心に寄り添うしぐさと言葉かけ



病棟内の様子



PPE 着脱手順

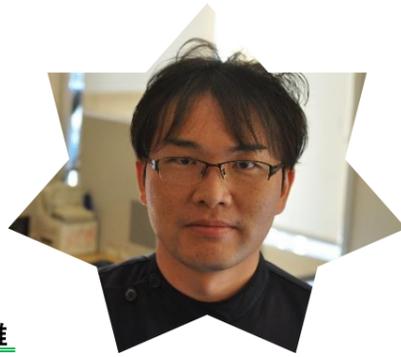




内科部長  
木村 祥子

新型コロナウイルス感染症の蔓延で北播磨地域でも感染者が増加したため入院患者さんの受け入れを開始し、徐々に大きくなる波に揺さぶられながら 20 か月が過ぎ、これまでに当病棟では 300 名の診療を行ってきました。指定病床であるため、保健所や県からの要請で、北播磨地域だけでなく阪神間や姫路、明石からも入院患者さんが来られたり、発熱トリージ外来や救急外来から入院となったり、また入院後に発症した患者さんの転棟を受けることもあります。当初は軽症から中等症患者の受け入れ予定でしたが、

ワクチンも抗ウイルス薬もない状況で、若年者でも入院後に重症化する患者が続出しました。重症患者対応の重点医療機関へ搬送させていただくこともありましたが、病床が逼迫した第 4 波のころは当病棟で人工呼吸器管理や透析治療をせざるをえない状況でした。最近では肺炎が重症化することは殆どなくなり、合併症悪化での治療が必要となり診療内容も多彩になってきています。当病棟では、主治医を専攻医も含め内科医が担当しております。敢えて専従とせずに 1 か月単位で交替しながら患者さんを担当することで、この 100 年に一度といわれる感染症に内科全体で戦う体制とし、今後も病院一丸となって乗り越えていきたいと思っております。



内科医長  
柏木 貴雄



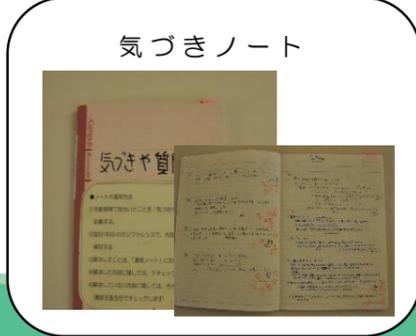
4 南看護課長  
大西 浩美

当病棟の看護体制は 4 対 1 で、施設基準としてハイケアユニット入院 医療管理料を算定しています。常時 2 名の看護師を配置し、安全で質の良い看護の提供をめざし努力しています。

COVID-19 感染症患者様と向き合うことになったスタッフは、自身が感染するかもしれないという不安を抱えつつも、COVID-19 感染症患者様を受け入れる病棟の看護師として、患者様の健康、地域住民の健康を守る使命感を持っています。その姿勢と心構えは、掲げたスローガン「徹底・笑顔・寄り添う」に込められており、スタッフが患者様とのかかわりの中で、迷った時の指針となっています。そして、小さな成功体験の共有はチームワークの強化につながり、個々の自信へとつながっています。また、時期によって変化する治療や、発達段階上の看護の重要性について学べたことも自信に繋がったのではないかと思います。

隔離環境にある患者様に思うような看護を十分に行えないジレンマに対し、気づきノートで発信し、課題を解決できるように皆が意識をして取り組みました。気づきノートに出た検討課題は、皆が共有できるマニュアルとして確立しています。

今後、第何波が来ようとも病棟としての機能を維持しつつ、地域住民の皆様、地域の先生方の期待に応えられるように頑張っていきたいと思っております。

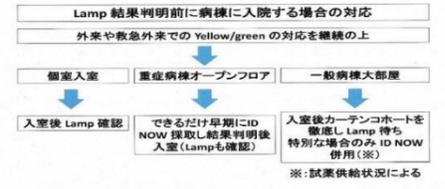


気づきノート

# 新型コロナウイルス感染症対策の変遷

感染管理室を設置し、患者・職員を守り  
病院機能を維持するため 感染管理の徹底をしています

## 《取り組みの変遷》

<p>令和 2 年 3 月 23 日</p>	<p><b>発熱トリージ外来開設</b></p>  <p>まずは電話で予約・問診をします。(トリージ)</p>  <p>病院駐車場に開設 西脇市多可郡医師会とともに運営開始 午前は当院内科医師 午後は西脇市多可郡の医師でスタートしました。</p>
<p>令和 2 年 7 月</p>	<p>来院前検温のお願い</p> 
<p>令和 2 年 9 月</p>	<p>LAMP 検査 : 入院されるすべての患者様に実施 入院部屋の選択 : リスクをスクリーニング (フローに基づき決定)</p> 
<p>令和 2 年 12 月</p>	<p><b>救急外来のゾーニングの実施</b> (各診療室をクローズできるように改修) 各部屋にアコーディオンカーテン、クリーンパーテーション設置</p> 

<p>令和2年12月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急外来コマンドコントロールの徹底</li> <li>・救急患者受け入れ時の感染予防の徹底</li> </ul> 
<p>令和3年 2月2日</p>	<p><b>COVID-19 陽性患者の受け入れ開始</b> 兵庫県から要請を受け軽症者の受け入れ</p> <p>～入院支援室～ <u>入院される患者の体調確認は必須!</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 入院前の体調確認（前日に電話訪問）</li> <li>2. 入院当日の体調確認後入院</li> </ol> 
<p>令和3年3月</p>	<p><b>新型コロナウイルスワクチン接種開始</b> 1回目・2回目（7月頃まで延べ31日間で実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西脇病院スタッフ・老人保健施設スタッフ</li> <li>・医師会、歯科医師会、薬剤師会・看護学校学生・消防</li> <li>・北播磨総合医療センター（10名）・訪問介護施設職員へ接種</li> </ul> <p>◎透析患者向けワクチン接種開始1回目</p> 
<p>令和3年7月</p>	<p><b>入院病棟入館禁止</b> 入院棟入り口での入館申請と検温の実施 特別面会基準簿作成 患者の状態により医師・看護師で協議し特別面会の許可となる ZOOM面会の開始 申込後1日2組実施（PM15時から）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・院内職員の行動規範教育</li> <li>・フェーズの作成と周知</li> </ul> <p>◎透析患者向けワクチン接種2回目</p>
<p>令和3年12月</p>	<p><b>新型コロナウイルスワクチン接種</b> 3回目（令和3年12月から令和4年3月実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西脇病院スタッフ・老人保健施設スタッフ・医師会・歯科医師会 薬剤師会・消防・訪問介護施設職員へ接種</li> </ul>



<p>令和4年1月</p>	<p>◎透析患者向けワクチン接種3回目（1月・2月実施）</p>
<p>令和4年6月</p>	<p><b>新型コロナウイルスワクチン接種</b> 4回目（6月から9月実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西脇病院スタッフ・老人保健施設スタッフ</li> <li>・医師会、歯科医師会、薬剤師会・看護学校学生へ接種</li> <li>・老人保健施設スタッフのうち60歳以上または基礎疾患のある方</li> </ul>
<p>令和4年7月</p>	<p>「UVD Robots MODEL C」が稼働</p> <p>（この装置は自動で院内を動き回り、紫外線を照射することで除菌作業をサポートしています。また、安全機能も充実しており、人や、障害物にはぶつからないよう設計もされています。新型コロナウイルス以外の感染症予防にも効果があり、院内のスタッフのみならず、病院を訪れるみなさんの安全・安心に役立っています。）</p>  <p>◎透析患者向けワクチン接種4回目</p>
<p>令和4年8月22日 ～9月6日</p>	<p><b>救急患者および新規入院の受け入れ制限</b> 複数名の職員、入院患者の感染が判明し、入院の診療機能に支障が生じました。</p>
<p>令和4年11月</p>	<p><b>新型コロナウイルスワクチン接種</b> 5回目（11月から12月実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西脇病院スタッフ・老人保健施設スタッフ</li> </ul> <p>◎透析患者向けワクチン接種5回目（11月から12月実施）</p>

